

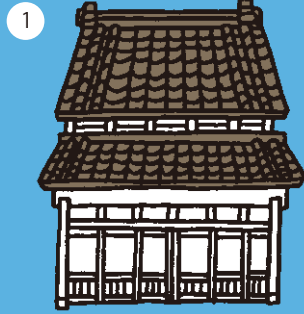
MAP

蔵と街

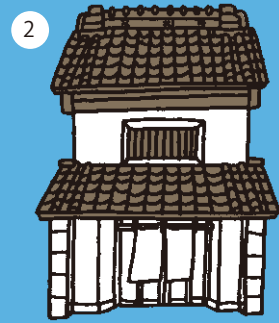
見る・知る・歩く蔵めぐり

栃木県
栃木市

WELCOME TO
TOCHIGI CITY
KURANOMACHI



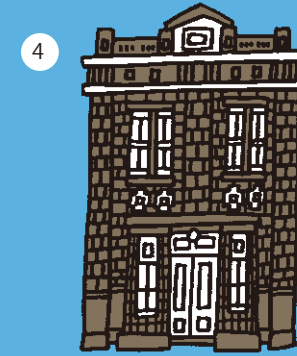
1 旧金澤呉服店
(とちぎ歌麿交流館)
1908



2 茂 | 呂
1908



3 塚田歴史伝説館
1899 - 1926



4 パーラートチギ/山々と星々 (番外)
(旧関根邸)
1922



5 くりとくら とちぎ蔵の街観光館
(旧綿忠はきもの店) (旧田村家)
1856 1905



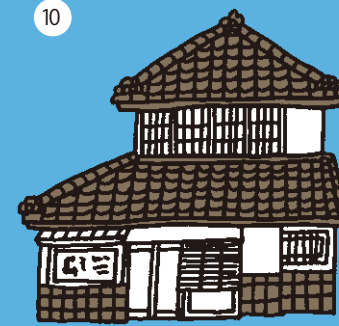
7 好古壺番館 (番外)
(旧安達呉服店)
1923



8 かな半旅館 (番外)
1887



9 利久
1886



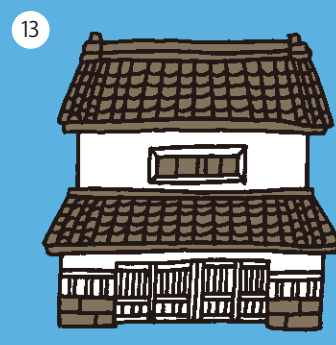
10 悟理道珈琲工房
(旧阿部清八商店)
1918



11 善野家土蔵
(蔵の街市民ギャラリー)
西蔵 1840 / 中蔵 1831 / 東蔵 1804-1817



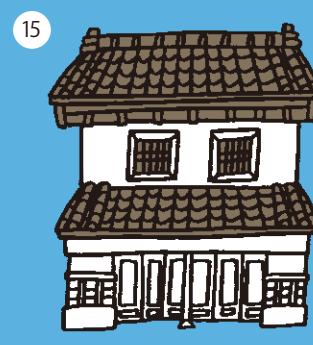
12 横山郷土館
1909



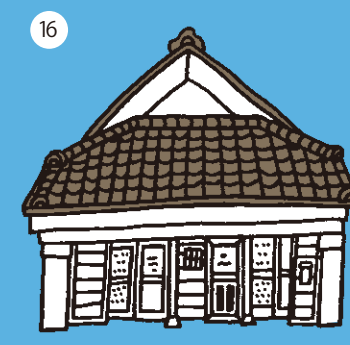
13 旧古久磯提灯店
1845



14 下野新聞社栃木支局
(旧毛塚肥料店)
1861



15 大貫定衛商店
1834



16 Lydie tells a small lie
???



17 物華 工芸と喫茶
???



18 岡田記念館
1924



19 嘉右衛門町伝建地区拠点施設
1947



20 油伝味噌
1899

蔵の街エリアの建物に関するお問い合わせは、下記までお気軽にご連絡ください。

栃木市地域振興部蔵の街課
Tel : 0282-21-2573
Mail : kuranomachi@city.tochigi.lg.jp

「街と蔵」2025年11月発行
編集：清水将司/遠藤百合子
文：遠藤百合子 デザイン・イラスト：清水将司
発行元：NPO法人嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会

※この地図に掲載されている情報は2025年10月現在のものです。予告なく移転や営業内容の変更があり得ることをご了承ください。

この街には蔵がある。 蔵には歴史があり、そこには物語がある。

江戸時代以降、巴波川での舟運と例幣使街道によって、この街では多くの人と物が行き交いました。街道沿いには店舗（見世蔵）が立ち並び、呉服、荒物、味噌に乾物、理髪店、薬屋…生活する上で必要なもの、全てがこの街揃うような場所でした。それぞれの蔵が時代とともに商いや用途を変え、今に至ります。歴史を紐解くことで、そこでの古の商いを感じてもらえたら、街や蔵の見え方が少し変わるかもしれません。

PHOTO:KENJI ARATA TEXT:YURIKO ENDO



1 旧金澤呉服店(とちぎ歌麿交流館)
とちぎ歌麿交流館は、栃木市ゆかりの浮世絵師・喜多川歌麿(*1)について知ることができる建物。元は呉服・太物(*2)問屋で、奥には住居、庭、土蔵が残り、開館中は内部を見学できる。土蔵の墨書により幕末にはこの地で商売をしていたことがわかる。



2 茂 | 呂
明治時代は「堺屋酒店」という酒の卸店であった。屋根の棟の部分に「堺屋」の文字と屋号が残る。現在は個性的な古道具や機能性に富んだ日常雑貨を扱い、たまに作家展示(or 展示会)も。古と今を繋ぐモノたちとの出会いを愉しめる空間となっている。



3 塚田歴史伝説館
栃木市の代表的な景観である川沿いの土蔵群と黒塀。塚田家は江戸時代後期から材木回漕問屋(*3)として、川を使い江戸へ材木を出荷していた。館内で見られる塚田家の歴史を伝える展示や、ここでしか体感できない巴波川話のロボット劇は必見。



4 パーラートチギ/山々と星々
正面は洋館だが、住居、庭、土蔵が続く配置は他の見世蔵と変わらない。関根家は幕末から煙草の卸売を営み、洋館は貸事務所として大正期に建設。今は栃木市の自然・産物・文化に親しめる、カフェと生活道具の製作販売の店となっている。



5 くりとくら
江戸時代、栃木は下駄の一大産地で、江戸時代創業の綿忠は3代目からはきもの屋を営んでいた。現在、見世蔵は老若男女に喜ばれる体に優しいお弁当やおやつの店として、土蔵は栃木市の移住体験施設として多くの方に利用されている。



6 とちぎ蔵の街観光館
荒物・麻芋(*4)問屋を営んでいた田村家。一際大きな見世蔵で、軒先の重厚感ある4重蛇腹、棟や影盛、側面の観音開扉など見応えがある。現在はとちぎ蔵の街観光館として土産物を販売。敷地内には江戸期の蔵や飲食店として活用している蔵もある。



7 好古壺番館
江戸時代末期より呉服の卸問屋を営んでいた安達呉服店の洋館店舗。登録有形文化財。現在は飲食店として、自慢の手打ちそばの他、栃木の旬の食材を使った季節限定メニュー等をいただける。栃木市名物『じゃがいも入りやきそば』もぜひ。



8 かな半旅館
江戸時代創業、宿場町の頃から多くの旅人を受け入れていた老舗のお宿。短冊状の地割を活用した敷地内の土蔵では、観音開きの窓を間近で眺めることができる。大通りに面する店舗は誰でも利用できる食事処。栃木の名産を使った料理を堪能してみてください。



9 利久
明治期、古久磯提灯店の支店としてこの地で燈籠業や煙草商を営んでいたと思われる。その土蔵として残る路地裏では、夜になるとあかりが灯り、美味しいお酒とおつまみを愉しめる。築140年の土蔵は、お一人でも団体でも居心地の良い空間。



10 悟理道珈琲工房
明治期、栃木の主要な産業であった麻。大通りには麻問屋が多数あり、この場所もその一つであった。角地にあり、店舗・住居・蔵という配置を今も活かしている。店舗は自家焙煎珈琲と本の店として、現在の蔵の街のカルチャーを楽しむことができる。



11 善野家土蔵(市民ギャラリー)
「釜佐」の名で知られた善野家は、古くから質屋を営み、栃木商人の中で最も古い歴史を誇る旧家。3棟の蔵は似ているようで形や大きさが少しずつ異なる。現在はギャラリーやチャレンジショップとして市民に開かれた蔵となっている。



12 横山郷土館
明治期に横山家が大通りからこの地に移り、建設。木造建築の南側で銀行、北側で麻問屋を営んでいた。両側の石蔵は見比べてみると異なる点がたくさん。敷地内には大正期の洋館、広い庭園もあり、どこを切り取っても写真映える美しさ。



13 旧古久磯提灯店
大通りに残る見世蔵の中で一番古い。平成20年まで提灯店として商売をしていた。建物は通りに対してやや斜めに建てられており、諸説あるが大八車(荷車)を置くためと言われている。大通り東側には同様の建物が複数ある。



14 下野新聞社栃木支局
江戸末期の見世蔵がオフィスに。地元紙・下野新聞社栃木支局となっているこちらの建物は、江戸時代に肥料商を営んでいた毛塚惣八が建てたもの。当時見世蔵の工事を請け負った大工・鈴木七右衛門は、幕末の栃木町を代表する大工であった。



15 大貫定衛商店
全国で3番目に古い見世蔵で平成9年まで麻芋問屋を営んでいた。現在は建物を継いだ店主が、屋号もそのままに新たな店づくりを進めている。短冊状の敷地には土蔵も3棟残り、その先は巴波川に直結。江戸時代からの地割を残す貴重な場所。



16 Lydie tells a small lie
江戸末期の見世蔵と伝わるこちらのお店。海外ヴィンテージの古着やヴィンテージパーツをリメイクしたアクセサリーを扱う。ポップでカワイイ世界感と重厚な外観とのギャップはきっと栃木イチ。敷地内に残る土蔵も民泊施設としてリノベーション中。



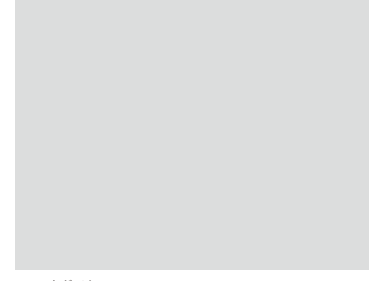
17 物華 工藝と喫茶
岡田家所有の土蔵のひとつ。古くから貸店舗として利用されており、現在は喫茶として土壁と和の雰囲気にも包まれながら甘味や茶を愉しむことができる。店主が全国から目利きした工芸品も販売しており、蔵での宝探し気分を味わえる。



18 岡田記念館
嘉右衛門町の名の由来が此処にあり。江戸初期、この地を開墾した岡田嘉右衛門。現在26代当主がその歴史を継ぐ。土蔵では徳川家から賜った品も展示。修理中の歴史的建造物では修復過程や職人の見事な技術を垣間見ることができる。



19 嘉右衛門町伝建地区拠点施設
味噌工場跡地が令和3年に市の複合施設としてオープン。散策していると見える煙突は工場時代の名残。街道沿いに並ぶ4棟の建物は、観光案内所のガイダンスセンター、飲食店、集会所として活用中。今後も整備が続き、進化していく新名所。



20 油伝味噌
江戸時代創業の味噌屋。油屋から始まり、初代の名が傳(伝)兵衛だったことが店名の由来。2023年にビール醸造も始め、味噌田楽と共に堪能できる。明治18年建築の土蔵は珍しい3階建。棟札に土蔵造りの名手・三富清兵衛の名が残る。

*1…晩年の作品「雪月花」は栃木の豪商、善野伊兵衛の依頼で描いたと言われている。明治12年に栃木の定願寺で開かれた展覧会に善野家が3作品を出品したという記録がある *2…絹織物である呉服に対し、綿や麻など太い糸で作られた着物のこと。普段着として広く親しまれた。
*3…材木を船で輸送する際の仲介をする問屋 *4…麻の繊維から作られた糸